が、いっしょうけんめい そだてて いる かだんの 花を ぬいて います。カメタは、コンキチに こえを かけました。 「コンキチくん、やめなよ。ピョン子ちゃんが、かなしむよ。」 その 日も、コンキチの いたずらが はじまりました。ピョン子 コンキチは、いつも こまった ことを します。

タは、 うへ いって しまいました。土が 目に 入って しまった 「うるさい コンキチは、かだんの 目を こすりました。こすると ぽろっと なみだが やつだな。」 土を カメタの ほうへなげると、 出まし カメ

やってきました。 つぎの 日、みんなで なわとびを して いると、 コンキチが

コンキチは、なわを まわして いた ピョン子から「おれも、まぜて くれ。おれが、まわして やるぞ。」 なわを

لح

「やめて。やめて。」

りあげ、らんぼうに まわしはじめました。

みんな、にげまわって います。 「コンキチくん、やめなよ。みんな いやがって いるよ。どうして そんな こと するの。」 カメタは、コンキチに いいました。

「なんだと。うるさい。みんな きらいだ。」

うしろすがたを 見つめて いました。 した。カメタは、 コンキチは、カメタを けとばして むこうへ けられた ところを さすりながら すると、 いって しまいま コンキチの

カメタの 目から なみだが こぼれました。

かざりを とりあげて います。それを 見て いた カメタは、こ きょうも、コンキチは ピョン子の だいじに して こうらに とじこもって しまいました。まっくらな

らの 中でも、こえは きこえて きます。

「コンキチくん、かえして。」

「やだね。ここまで おいで。」

きいているうちに、

ぽろん ぽろん

カメタの 目から なみだが こぼれて

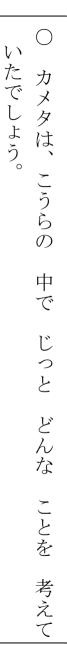
ンキチの ほうへ あるきだしまし考えて いた カメタは、やがて コーしばらく こうらの 中で じっと

て やろうか。」 また、けとばし

こらえていいました。でも、ぐっとカメタはこうらにあたまをひっとコンキチは、カメタをにらみました。

「コンキチくん、やめなよ。コンキチ いっしょに なかよく あそぼう。」

メタは コンキチは、ぽ じぶんでも お日さまが 目から、 コンキチの 手を そっと にぎりました。 ぽろっと いんと して きいて いました。やがてびっくりする くらいの 大きな こえが ふたりを なみだがこぼれました。 あたたかくつつみました。 やがて、 それを でました。 見た コンキチ



コンキチに、「やめなよ、いっしょに った とき、 カメタは どんな きもちだったでしょう。 なかよく あそぼう」